

Faculty Newsletter  
教育学部ニューズレター

通巻 209 号 (2013. 11. 28) 発行: 埼玉大学教育学部 FD 委員会

第 33 回教育学部大久保農場収穫祭のご報告

大久保農場主任 荒木祐二 (技術教育講座)

埼玉大学教育学部大久保第 1 農場にて、11 月 15 日 (金) に技術教育講座の「栽培技術の基礎 (実習を主とする)」受講生一同ならびに大久保農場の主催による収穫祭が行われました。今年で 33 回目を迎えます。

当日は時雨に見舞われましたが、大学から上井学長、西田副学長、秘書課の塩野氏、経理課の佐々木氏、浦田氏、総務課の中野氏、教育学部から齊藤学部長、細淵副学部長、山口先生 (総教)、桐淵先生 (総教)、横尾先生 (美術)、萩生田先生 (心理)、戸田支援室事務長、荒井事務長代理がご参加くださいました。また、さいたま市長からメッセージを頂戴しました。

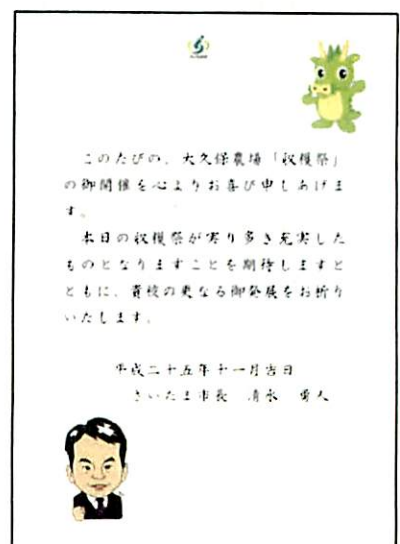


上井学長によるご挨拶と収穫祭のようす

司会は技術専修 1 年生の中川君が務め、はじめに農場主任である筆者の挨拶、上井学長のご挨拶がありました。上井学長からは、「農業と教育はほとんど同じで、地の力で作物を育てる。それが人の役割であり、教育に通じるものである。それぞれの潜在能力を伸ばしてほしい。」というお言葉を賜りました。続いて、西田副学長から「今回で 4 回目の参加。作物は人に喜びを与える。教員になってから、教え子たちの植物を慈しむ心を育ててほしい。」というご挨拶と乾杯の音頭の下、宴会が始まりました。

歓談の合間には、齊藤学部長より「去年は初めての参加であつという間だった。今年は余裕を持って楽しみたい。」、山口先生より「農場を残したい。第 2 農場もみんなで利用し、子どもたちも利用できるように検討していきたい。」、戸田事務長から「事務の業務も、学生たちが力をつけて社会にとって良い先生が育つことをめざしている。」とのご挨拶をいただきました。また、農場講義室内のプロジェクターを利用して、浅子技能補佐員より栽培実習のようすが上映されました。その後、受講生による余興があり、体をはった芸に会場は大いに盛り上がりました。最後に、全員で埼玉大学歌を斉唱し、前農場主任の石田先生による「いまま収穫祭をやってもらって嬉しい。学生諸君、がんばれ。」という中締めのご挨拶をもってお開きとなりました。

農業文化国である日本のよき伝統が、この大久保農場にも確かに根付いています。この収穫祭が、今後も農場の運営に携わる皆様と受講生らとの交流の場になることを願いつつ、大切に引き継いでいきたいと考えています。今後とも大久保農場の活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



さいたま市長からのメッセージ

## 2013年収穫祭を終えて

七五三木侑乃（技術専修1年生）

私たち「栽培技術の基礎」受講生（技術専修1年）は、初めての収穫祭へ向けて期待を込めて準備を進めていきました。今回の収穫祭では、司会や装飾、余興、料理といった役割分担を学生自身が決めました。司会の中川君は何日も前から司会の練習に励み、本番ではスムーズに進行することが出来ました。装飾は男子学生が中心となり、慣れない作業に戸惑いながらも、場を華やかにしようと奮闘しました。ホワイトボードや看板に書かれた文字はとても凛々しく、会場の空気を引き締める役割を果たしていました。余興は、当日までなかなか決まらず、本番直前まで打ち合わせや練習を重ねていました。それでも本番では、緊張しながらも場を盛り上げる使命を見事に果たしました。そして、料理は収穫祭の要とも言える重要なものです。農場のダイコンが入ったおでんや豚汁、苗から育てた米のおにぎりを作りました。薪や炭を使用したため大量の煙と格闘しながらもたくさんの食材を大きな鍋で調理し、とても美味しく作ることが出来て良かったです。みなさんから「おかわり」と声をかけていただいたことがとても嬉しかったです。



会場係による式次第の装飾



看板の作成



毎年恒例の余興のようす



料理係によるおにぎりとお惣菜の準備

これまで農場実習を通して様々な作物を育て、栽培について様々なことを学んできました。小学校や中学校ではただ何となく育てていた作物も、この講義では指導者の目線を意識しながら育てるということに取り組んできました。特にトマトやナス、ピーマン、バケツイネを育てた時には、それぞれが栽培方法を工夫し日々世話をしていました。自分たちが育てている作物に愛着がわき、食味をするとその美味しさに毎回驚きます。そして、そんな美味しい作物を育てるためには様々な苦勞がつきものだとことを学び、日々の食に対する意識も変化して、料理に使われている食材や味、食感に関心を持つようになりました。今回の収穫祭では、自分たちで丹精込めて栽培・収穫した食材を来賓の方や先輩方に食べていただき、皆さんが笑顔で美味しそうに食べている様子を見られてとても良い経験になりました。また、普段の大学生活ではなかなかお会いできない方々と、視線を交えながらお話することが出来たこともとても良い刺激になりました。帰り際に「美味しい料理をありがとう。また来年も是非開催してください。」とのお言葉を頂いたときはとても嬉しく、1年生全員の顔が笑みで溢れていました。

50人以上もの方々をもてなすために、栽培担当の荒木先生、浅子先生をはじめ、栽培学研究室の先輩方のお力を借りて、収穫祭を無事に成功させることが出来て良かったです。技術専修1年生も、1つの大きな行事を終えたことで団結力がより一層深まり、成長出来たと思います。来年も新たな受講生が中心となり、多くの人々と交流を深め、自らが成長できる場として収穫祭が成功することを祈っています。



野外施設における大鍋の設置



大鍋によるおでんづくり



収穫祭やるぞー！



来賓のお土産にするダイコンの洗浄